

高坂館跡

埼玉県東松山市高坂834



インターネット/余湖くんのお城のページより

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/takasaka.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/higasimatuyamasi.htm>

高濟寺



山門





埼玉県指定文化財「加賀爪氏累代墓」の標柱



庚申塔



土塁(櫓台跡)





堀跡



古墳発掘調査の済んだ跡



本堂















六地藏



城山稲荷(土塁の上にあったものが移設されたとのこと)



背面に土壘が続く



正面も土塁(古墳利用の檜台跡)/ここに「加賀爪氏累代墓」がある









加賀爪氏累代の墓

昭和五年二月県指定旧跡

加賀爪氏は、徳川家に仕えて禄高一万石を領し、この地に陣營をおいた領主です。しかし、元和元年(一六八一年)に加賀爪氏は、その家禄を断絶されました。

加賀爪政尚は、徳川家康に仕え、長久手の戦、小田原征伐に戦功があり、比企と相模国高座(神奈川県高座郡)に三千石を領しました。加賀爪忠澄は、関ヶ原の戦、大坂の役に戦功があり五千五百石を領し、江戸町奉行に登用されました。加賀爪直澄は、旗本中の乱暴者として通ったようですが、書院番隊長、寺社奉行等を勤めました。また、茶道にも通じていたらしく、鶴陽舎一明、別に、名月庵鑑とも号していたと伝えられています。

加賀爪氏は、直澄の代に成瀬氏との間で領地問題をおこし、天和元年(一六八一年)に領地を没収されています。墓碑は向って右から

東雲院殿雪岡宗大禪定門(政尚)

高濟院殿自久妙然大姉淑靈(政尚室)高さ二・七六米

梅陽院殿峯山常雪居士(直澄)貞享二乙丑天(一六八五年)十月三日

高雲院殿一玄宗黒大居士尊儀(忠澄)寛永十八辛巳年(一六四一年)正月晦日

心光院殿弧雲正白大禪定尼台靈(忠澄室)承応元壬辰年(一六五二年)六月二十六日

安藤直次の女

靈源院殿独峯玄耀居士(直澄)貞享二乙丑天(一六八五年)十月四日 高さ二・五二米

正山春高童子(忠澄の子)元和八壬戌天(一六二二年)七月七日 高さ〇・七米

無閻宗徹居士淑靈(貞輔)万治三庚子年(一六六〇年)霜月念五日 高さ二・〇二米

華嚴清春童女靈位(直清女)寛文十三癸丑(一六七三年)正月七日 高さ一・六七米

掩粧清光院殿覺寔貞姓大姉台靈(直輔母)寛文元丁丑(一六六一年)七月二日

高さ〇・九七米

聖観音浮彫 心窓浄春居士 桐雲妙悟大姉 高さ〇・五五米

と並列しています。

昭和五十二年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしましょう



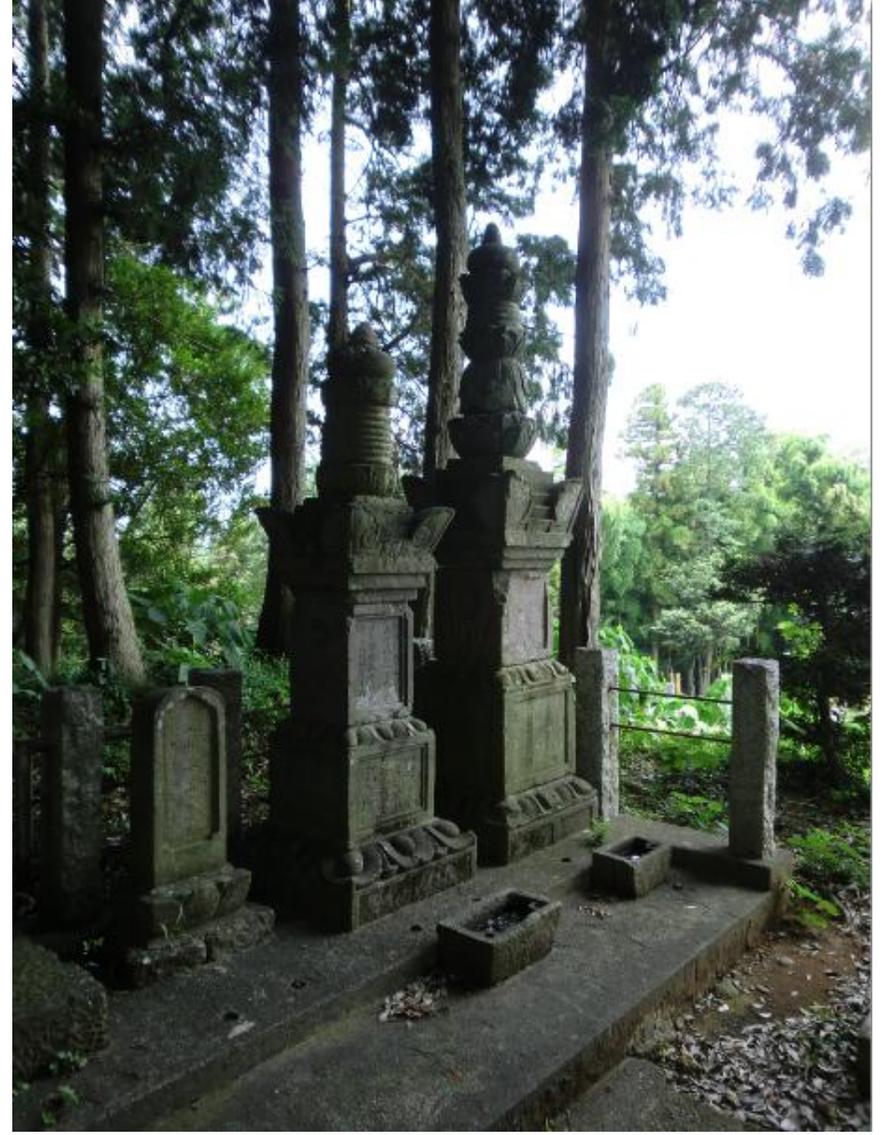
立派な宝篋印塔が立ち並ぶ



いずれも江戸時代の造立







この背面も土塁



裏から見る(空堀の底部から見上げた土塁)



周囲はこのような形状



この上に高済寺がある



土塁部分は続く



高済寺境内には年代物の宝篋印塔、五輪塔や唐破風の石塔が沢山あった









このように唐破風一つとっても、その時代のデザインの流行、変遷等を通して時代考証と文化を感じることができるのは大変貴重なことである



こんなのもありました





再調査分

ここは前方後円墳の頂部で、正面が「加賀爪氏累代墓」がある後円部になる



後円部から振り返って前方部を見る/ただし、前方部の先は後世に土塁として利用され、連続している



ここは土塁として古墳が連続して成形されている/右下は堀跡



振り返って土塁下の堀跡を見る



下から堀跡と土塁を見る/前方の木の密集しているところは古墳の後円部



次に館跡の外周を廻って見てみる/これは北東部の外周



正面は北と南に分断している現在の道路



前方は分断道路の南側部分を見る



館跡の裾に沿って公園が整備され、小川が堀跡(水堀)のイメージを再現している





前方の道路付近が館跡の南端辺りであろうか



こんな文化財もあった



緑泥片岩製の石橋



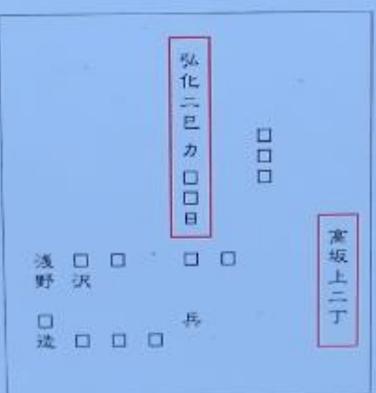
高坂上二丁の石橋

この石橋は、旧八王子道の側溝の水を、崖下の高坂耕地に流すように設けられていた溝に架けられていたものです。

裏側には年号・地名と人名が刻まれ、この橋が江戸時代の高坂宿の上（かみ）の一・二丁目二町に住んでいた「浅野□造」などの人たちを中心に、弘化二年（一八四五年）に架けられたことが分かります。

人や牛馬が耕地に向かうため、丈夫な橋が必要なことから、当時の沢山の人々が力を合わせて掛けたことがうかがえます。

材質は、緑泥片岩で、大きさは、長さ約二二〇cm・幅約九〇cm・厚さ約二五cmの一枚岩です。



裏面の銘文

この辺りには高坂の七清水の内、「高済寺下の清水」、「東光寺下の清水」があるという



高坂の七清水

七清水せせらぎ緑道は、岩殿台地から続く台地と都幾川によりもたらされた低地の間に連なる河岸段丘の崖下に沿って通っています。一般的に河岸段丘の崖下は、台地に降った雨が湧水として湧き出し水の豊かな場所を形成します。

この河岸段丘の崖下も、この辺りが古くから「七清水八坂」と呼ばれ、湧水は人々の生活の中で利用され、飲み水としても使っていたという記述も残っています。

現在もこの河岸段丘沿いには七つの清水があり、当せせらぎ緑道の名前にも使われ、七清水のうちの二つ、「高済寺下の清水」、「東光院下の清水」がこのせせらぎ緑道内にあります。



高済寺下の清水

東光院下の清水

観音下の清水<市文化財>



赤線で囲まれた部分が高坂館跡域か

